



ちょっと素敵な話

No.17

今ここに
いる理由

二三歳の時、縁あって塚口福成園の事務員（臨時職員）として、採用されました。当時自分のやりたいことが見つからず、流されるまま知り合いの紹介で面接に来たので、福祉はもちろん、経理や会計事務の知識もまったくありませんでした。ただただ戸惑いの毎日。

人見知りの私は利用者さんに挨拶するのが精いっぱいだし、仕事のミスをするたび、「私には無理だ…。辞めたい。」と何度もそう思うことがありました。産休の事務員さんが戻れば私は終了、それまで頑張ろう…。そんな気持ちで利用者さんと接するうちに、楽しんで仕事をしている自分がいました。

八か月経ったある日、当時の園長から「新しい施設ができるから、事務員が一人必要。四月からは正規職員として続けないか。」と声をかけられました。

自分の中ではもう終わりと思っていたので、次の仕事の面接を受けていました。しかもほぼ内定をもらっていたし、気持ちはもう次の仕事に向かっていたので、とても悩みましたが、考えた結果続けることに決めました。

しかし二七歳になった頃、ようやく自分のやりたいことが見えはじめ、誰にも相談せず「退職」を決めました。仕事にも慣れ、職場環境にも恵まれましたが、三〇歳になる前にどうしてもしておきたいことができたのです。

転職した職場は、とあるショップでした。

ある日、数人の利用者さんや支援員さんであろう方々が買い物に来られました。

レジでは手伝ってもらいながら支払いをされていました。私は福成会での事業所外活動や、一泊旅行を思い出しました。その後もいろいろな場面で知的障害の方を見かけるたび、懐かしくなりました…。

ショップでの勤務に、何か大きな不満があるわけではなかったのですが、急に福成会での仕事が懐かしく、恋しくなりました。

仕事で落ち込んでいた時、利用者さんの笑顔が癒してくれたこと。

いろんな話を聞いてくれた同期や仲の良かった先輩・後輩たちのこと。

辞める時に引き止めてくれた上司のこと。

福成会を退職してから五年経ったある日、気づけば福成会のホームページを見ていました。すると採用情報には「事務員募集」の文字が！心が揺らぎました。でも、私は一度辞めた身…。

それから数か月、まだ募集しているのを見て、思わず応募をしてしまいました。

前に福成会に入職した時の気持ちとは違う、“福成会で働きたい！”と思い、自分で選んだ道。

福祉の知識がゼロであった私は、日々利用者さんや先輩たちから学ぶことができました。再入職してから早四年半、今でもまだまだたくさん学ぶことができます。

利用者さんに癒されるだけでなく、利用者さんの笑顔のお手伝いをしたくて、今ここに私はいます。

